

「向き合う」



エピソード

毎日電車に乗って通勤している雪夫さんはこんな場面にでくわしました。

満員の乗客をのせた電車が終着駅に到着し、みんながおりはじめた時のこと。一人の少年が、制服を着た2人連れの中학생に向かって大きな声をあげました。

満員の車内で肩がぶつかったので怒っているようです。制服のむなぐらをつかみ、電車の車体に相手の体をうちつけました。中學生は何の抵抗もせずたたかれていますばかりで、雪夫さんはどうしようかとためらいましたが、思いきって興奮している少年に声をかけました。

雪 夫：「もうそれくらいにしとけよ。」

少 年：「なに！おまえには関係ないだろ。」

まわりには電車をおりた人があつまっています。中年の女性がうつむきながら、少年の袖をつかんで引きとめています。

雪 夫：「あなた、お母さんですか？自分の息子さんをしっかりとめたらどうですか。」

少 年：「こいつは関係ないんだよ！」

その女性は、何も言わずにあたまをさげるばかりです。

駅 員：「どうしたんですか。何かありましたか…。」

駅員の姿を見たたん、少年はさっと人ごみの中に消えてしまいました。少年の横にいた女性もその後を追うようにして姿を消してしまいました。



雪夫さんのひとりごと…

● 駅員が来てくれたからおさまったけど、あれでよかったのかな。
注意して反抗されたら、それ以上関わらないでおこうと思っていたけど…。
自分がたたかれていた中學生の父親だったら、それとも暴力を振るっていた少年の父親だったら、どうしていたのかなあ。

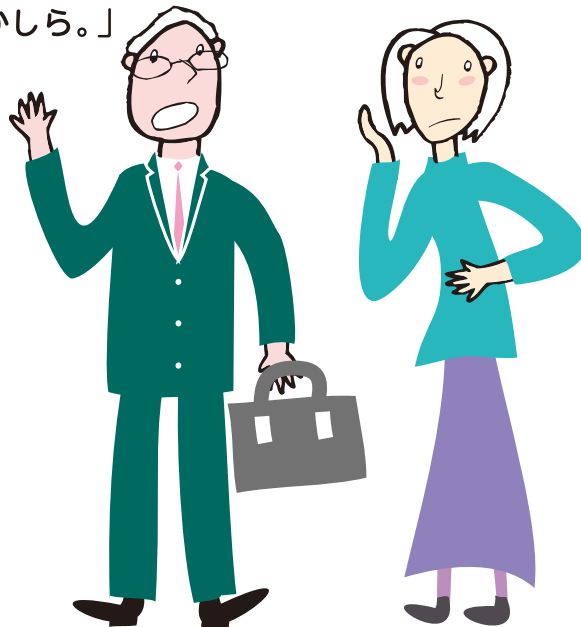
その夜帰宅した雪夫さんは妻の伸子さんにその日のできごとを話しました。

雪 夫：「あんなふうに関心の子どもが荒れたら、どう受け止めてやればいいのかなあ。」

伸 子：「そのお母さんの気持ちも分かる気がするわ。きっと子どもを何とかしようって、がんばった時もあったと思うの。でもどうしようもなくて……。耐えるだけでやってきたんじゃないかしら。とにかく逃げないで、そばにすることで、親としての責任をせいっぱい果たしていたんじゃないのかな。」

雪 夫：「親ならもっと何とかしないといけないんじゃない？やっぱり子どもから逃げてるんだと思うよ。」

伸 子：「どんな親だって、自分の子どもから逃げるなんてしないと思うわ。子どもに向きあっていても、どうしようもない反発を子どもにされることもあるんじゃないかしら。」



グループワーク

1 この会話に続く雪夫さんのセリフを考えてみましょう。
(ワークシートに書き込んでみましょう)

2 自分の子どもがエピソードのような行動をしたら、あなたはどのようにしますか？
グループに分かれ、シートに記入したセリフをもとに話しあってみましょう。